

JASE

# 現代性教育 研究ジャーナル

MONTHLY JOURNAL of SEX EDUCATION TODAY

2022年

No. 135

2022年6月15日(毎月15日)発行

日本性教育協会

THE JAPANESE  
ASSOCIATION  
FOR SEX EDUCATION

〒112-0002 東京都文京区小石川2-3-23 春日尚学ビル Tel.03-6801-9307 Mail info\_jase@faje.or.jp URL https://www.jase.faje.or.jp 発行人 石川哲也 編集人 中山博邦  
© JASE. 2022 All Rights Reserved. 本ホームページに掲載している文章、写真等すべてのコンテンツの無断複写・転載を禁じます。

contents

大人にも包括的性教育をもっと身近に	多様な性のゆくえ⑩	9
「ライフデザインオンライン」	今月のブックガイド	10
いつきの「ヒューマン・ピーイング」⑮	JASEインフォメーション	11

## 大人にも包括的性教育をもっと身近に 「ライフデザインオンライン」

NPO 法人ピルコン理事長 染矢 明日香

### 包括的性教育、どう教える？

国際的な性教育の指針として、ユネスコより2009年に『国際セクシュアリティ教育ガイダンス』(以下、『ガイダンス』)が発表され、2018年改訂を経て、人権とジェンダー平等を基盤とする「包括的性教育(CSE: Comprehensive Sexuality Education)」が国際的に進展している<sup>(1)</sup>。しかしながら、日本では包括的性教育にあたる枠組みは学習指導要領において導入されておらず、十分に学校での性教育機会が保障されていない。

昨今インターネットで性情報が氾濫し、SNSを介した子どもの性被害が増加傾向にあり、日本の性教育政策は子どもたちの現実と国際スタンダードからかけ離れていると指摘されている<sup>(2)</sup>。東京都の公立中学校校長を対象に性教育に関する状況を尋ねた調査<sup>(3)</sup>では、「教員は、性教育について自信をもって指導し

ている」の項目では「あまりそう思わない」・「そう思わない」の合計は49%、「保護者は、家庭において子供に対して性に関する指導を行っている」の項目では、「あまりそう思わない」・「そう思わない」の合計は75%であった。学校でも家庭でも、教える側の大人が性教育に自信を持っていない現状がある。

そんななか、筆者が代表を務めるNPO法人ピルコンは、2007年より活動を始め、2013年に法人化し、産婦人科や助産師等の専門家の協力のもと、若者への性の健康の啓発活動を行ってきた。これまで中学校・高校を中心に、大学生・若手社会人の若者ボランティアと共に性教育講演をのべ300回以上、4万名以上の生徒を対象に実施してきた。その中で、より幅広いテーマでの性教育を実施したい、参加者とのディスカッションなど双方向的なやり取りを取り入れ、より生徒と深い学びの機会を作っていきたいと思う一方で、1度の外部講師としての学習機会では十分な学習時間を確保できない課題を感じてきた。

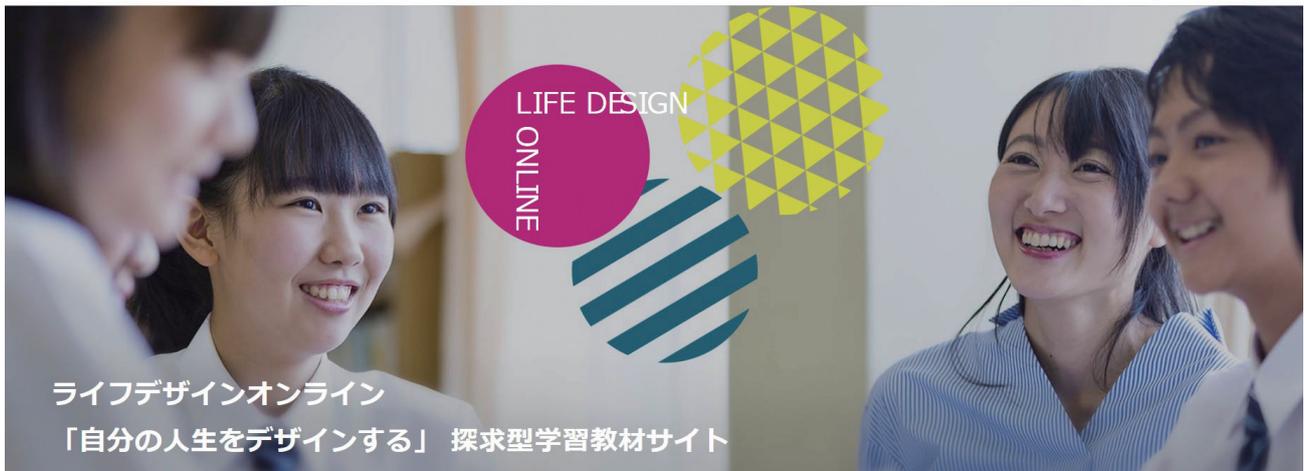

[相談先・支援団体一覧](#)
[ログイン](#)
[会員登録](#)
[お問い合わせ](#)
[教材検索・ダウンロード](#)
[授業をする前に](#)
[導入実績（準備中）](#)
[私たちについて](#)
[Q&A](#)


図1 「ライフデザインオンライン」のトップページ (<https://lifedesign.pilcon.org/>)



また現場の教員からも、包括的性教育の重要性を認識しながらも、学校で実施していくには「どこまで踏み込んでいいのか、どう教えていいかわからない」「時間・予算がない」「管理職や他の教員の理解を得ることへのハードルがある」という声も聞いてきた。

また教員への必要な支援として、スライド教材・動画教材の充実や、教員の研修機会の充実を求める意見も多くいただいていた。更に、2020年のコロナ禍で長期休校による妊娠不安に関する相談の増加、対面での性教育講演の見合わせや延期が相次ぎ、どのように性教育を中高生に届けていくのかがより喫緊の課題となった。

こうした状況や教員側の課題意識から、学校における包括的性教育を学校教員と共に豊かにしていくことを目指し、教員向けの包括的性教育教材ポータルサイト「ライフデザインオンライン」をスタートした。

## 「ライフデザインオンライン」とは

### (1) コンセプト

「ライフデザインオンライン」は、性教育や人権教育を授業や学校づくりに取り入れたい学校教員のための登録制の教材ポータルサイトである。2020年より日本財団の助成を受けて企画開発を始め、性教育に関する専門家、ワークショップデザイナー、クリエイタ

一、そして若者たちの協力を得て製作し、2022年2月にオープンした。

サイトに会員として登録をすると、学校の授業で実践的に利用できる各種教材を閲覧・ダウンロードができる。会員登録しなくても閲覧可能なコラムやサンプル動画も用意しているため、気軽に内容を覗いてもらえる。「性教育」に関心が少ない、もしくは誤解のある教員にも理解を広げるため、あえて「ライフデザイン」という言葉を用い、「この変化の時代に、自分らしく生き、自分の未来を切り拓くために必要な学び」「自分らしい人生を選択できる力を育む」ことをコンセプトに位置づけた。

本サイトの教材は知識を得るだけでなく、参加型のワークショップを取り入れ主体的に考え、生徒・学生をエンパワーできるよう、探求型学習のアプローチを主軸においた。サイトオープン時においては授業の対象者として、中学生から高校生とした。

### (2) 特徴

「ライフデザインオンライン」では下記の5つの特徴がある。

#### ① 動画コンテンツが充実

各テーマにおいて、スライドを用いて知識を解説する講義動画、親しみやすく伝えるアニメ動画、若者のインタビュー動画など、動画教材を豊富に取り揃えた。



図2 「ライフデザインオンライン」で大切にしていること

## ② 対話的な学習プラン

『ガイドンス』では、学習者中心アプローチとして参加型授業の有用性が記されていることから、知識提供だけではなく、自分の気持ちや経験に向き合い、他のメンバーとの議論やワークショップを含む学習デザインとした。

## ③ 多様な性のあり方を尊重

プログラム全体を通して、また使用するイラストは、ジェンダー規範や、恋愛が異性愛前提であることを強化しないメッセージになるよう、多様な性のあり方を尊重する表現を取り入れた。また、様々な体型、肌の色のキャラクターや、逆に性別を明示しないキャラクターを登場させることで、インクルーシブな表現を目指した。

## ④ 専門家が監修

学習目標、授業内容、事前・事後アンケートは『ガイドンス』の学習目標を参考にして作成した。監修には性教育・ジェンダー教育が専門である埼玉大学基盤教育研究センター准教授の渡辺大輔氏、ワークショップデザインについては湘南工科大学特任教授等を務める樋栄ひかる氏の助言を得た。また産婦人科医や市民活動家等、様々な専門家のアドバイスと、若者・現役教員の意見も得ながらプログラム開発を行った。

## ⑤ 講演依頼にも対応

「ライフデザインオンライン」を運営するピルコンでは、学校や施設を訪問、もしくはオンラインでの講演依頼を受け付けている。教員の希望によってピルコンが講演を実施する選択肢も提示している。

## (3) テーマ

ライフデザインで取り扱うテーマとして、以下の6つの授業を作成した（次頁図3参照）。

- ①性の多様性・ジェンダー「性別ってなんだろう？」
- ②ボディイメージ・思春期「10代ってどんな時期？自分の体、どう思う？」
- ③同意・性暴力「性的同意ってなんだろう？」
- ④情報モラル・健康的な人間関係「SNS、インターネットを楽しく使うには？」
- ⑤性感染症「性感染症ってなんだろう？」
- ⑥妊娠・避妊・ライフプラン「これからのライフプランを考えよう！」

各テーマでは、設定された学習目標をもとに作成した、以下の教材がダウンロードできる。

### ●授業の流れ・指導案：

1コマあたり50分で設定し、動画教材は20～30分程度、ブレインストーミングやクイズ、グループディスカッションなどの参加型学習を取り入れたワー



図3 「ライフデザインオンライン」の6つのテーマ

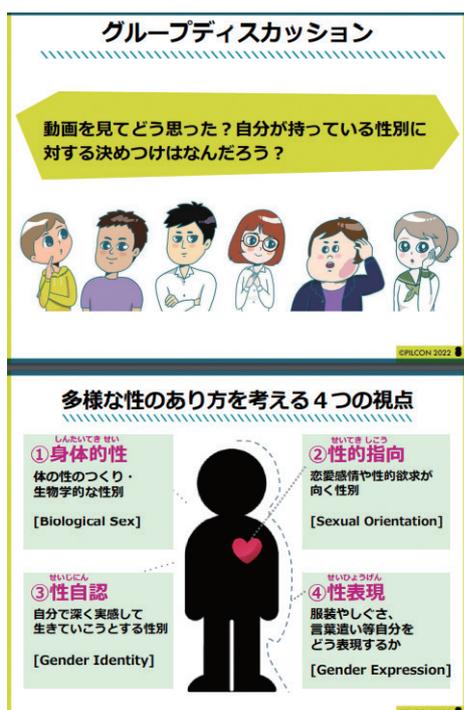


図4 「ライフデザインオンライン」のスライドイメージ (「性別ってなんだろう?」より)

クショッップの時間を20～30分程度設定した。なお、ワークショッップにあたっては、安心して発言できるよう、グラウンドルールをスライド、ワークシートに記載した。

●授業用のパワーポイント/PDFスライド

●動画教材:

スライド資料を用いた講義動画/アニメーション動画/若者へのインタビュー動画を含む。

●ワークシート:

授業のポイントや、ワークショッップ時に自分の考えや他の人の考えをメモするために使える。

●事前・事後アンケート:

「知識」「態度」「スキル」の3つのカテゴリーについて短期的学習効果を測るための選択式設問と、質問・感想を記載する自由回答式設問によるアンケート用紙。

また、各テーマの関連動画として、ピルコンが日本語訳・吹き替えを行うアメリカのNGOが製作する

**ライフデザイン ONLINE** 性的同意ってなんだろう？  
ワークシート

グラウンドルール

- みんなで話そう**  
なるべく皆が発言できるように順番をまわそう(話したくない時はパスOK)
- まずは聴こう**  
他の人の発言は、否定せず受け止めよう(悪口や言葉の暴力はやめよう)
- 気持ちを言葉に**  
「普通は～」ではなく、「私は～」で話そう
- プライバシーを守ろう**  
他の人の個人的な話は、勝手に他の人に話さないようにしよう

性的同意(セクシュアル・コンセント)とは？

性的なふれあいすべてにおいて確認されるべき同意のこと  
沈黙をしている人や無理やり言われた人は同意したとは言えないよ

**○ 性的同意がとれている**

いい? → いいよ

対等な関係性

- 性行為をした時に起こりうることを知っている
- 性行為をしない選択肢も尊重される
- 自分から進んで決められる

相手の気持ちを確認するには?

**✕ 性的同意がとれていない**

いい? → いやだ

いい? → ...

相手の気持ちを伝えるには?

年 組 名前 \_\_\_\_\_ 

もし身近でデートDV(恋人間で起こる暴力)かも?と思ったら?

- 友だちがデートDVをされていたら?**
- 「愛されてるってことだよ」「のろけるの?」など、暴力を肯定したり、茶化したりしない
  - 友だちの言うことを信じて、力になると伝え、話を最後まで聴く
  - 「自分だったらイヤだな」「あなたにそんな目にあってほしくない」「あなたは決して悪くない」と伝える

**友だちがデートDVをしていたら?**  
相手を傷つけない気持ちの伝え方や対応方法をいっしょに考えてみよう

もし、性犯罪・性暴力被害にあった場合の相談先は?



警察  
ハートさん  
☎ #8103



婦人科・産婦人科等



性犯罪・性暴力被害者のための  
ワンストップ支援センター  
はやくワン  
☎ #8891



全国のワンストップ  
支援センター  
一覧が見れるよ

グループディスカッション

お互いを大切にしよう関係性のためには何が必要?

授業のメモ・感想

Supported by  THE NIPPON FOUNDATION

図5 「ライフデザインオンライン」のワークシートのイメージ(「性的同意ってなんだろう?」より)

性教育アニメ動画「AMAZE」(<https://Amaze.org/>)の動画等も掲載している。そして、学習した生徒・学生が更なる相談支援や情報を得たいと思った時につながる相談機関や支援団体も「ライフデザインオンライン」サイトの他、教材のスライドやワークシートに掲載するようにした。

なお、サイト・教材は、分かりやすく親しみやすいデザインにするため、社会問題をやさしく伝える活動をしているチャリツモに依頼し、サイト制作は性教育サイト「命育」が担当した。

(4) 教員からの感想

「ライフデザインオンライン」について、教員からはサイトやスライドの分かりやすさを評価する声が多いほか、「具体的な授業の指導案やスライド、動画、ワークシート、アンケートがあるので、そのまま授業ができる点が良い」「身近で手軽に効率よく授業の準備ができる」といった反応を多くいただいている。

また、性の多様性の教材を活用した教員からは、「生徒と教員と一緒に考えることで、自分自身の学びも深まった。クラスに2～3人の割合でいるとされる性的

マイノリティの生徒にとって、安心・安全な学習環境をつくるためにも、性の多様性の学びは改めて大切であり、今回の教材はその環境づくりに有効活用できるものと感じた」との意見があった。一方で、小学生向けの授業内容も製作してほしい、義務教育でのカリキュラム・年間指導計画案がほしい、授業づくりの助言を個別にしてほしい、学校環境ではサイトにアクセスできず教育センターとの連携を取るなどしてほしい、文部科学省や教育委員会、自治体の後援・バックアップを得てほしい、などの要望も多くいただいております、包括的性教育の必要性を感じながらも教員が教える上でのボトルネックが多岐にわたりあることを改めて感じている。

また、教員ではないが会員登録したいという要望も多く、今後有償にて教員以外の方も登録できる会員制度に広げていく予定である。性教育を教えたい人向けのコンテンツや研修なども充実化させていきたい。

(5) 受講した生徒・学生からの感想

「ライフデザインオンライン」のモニター調査に協力してもらった高校生・大学生からは、以下のような

意見をいただいた。

- 学校の性教育では、性行為や避妊に詳しく触れられず、あやふやな知識のまま大人になる人もいるので、このように具体的に幅広く性について学ぶことが必要だと思う。
- 教材の若者のインタビュー動画が印象的だった。性的同意の具体的な取り方や性感染症の経験談なども、リアルに語られていることで、自分だけじゃない、身近なことだと感じた。
- 性の多様性のインタビュー動画のなかに、性的マイノリティだけではなく、シスジェンダー・ヘテロセクシュアルの人も登場したことで、それぞれが多様性の一部であることを再認識できた。
- 「性暴力はダメ」と一方的に押しつけて終わりではなく、性的同意や、性被害にあった人に寄り添う方法を取り扱っていたのが印象的だった。
- ボディイメージが印象に残った。メディアの影響でルッキズムを感じる事が多く、ボディポジティブな考え方を身に着けることで、自分自身も肯定的に受け入れられるようになると思った。
- スライドに使われているイラストがかわいく、内容も見やすかった。

また、「ライフデザインオンライン」の教材を用いて講演を行った学校の生徒・学生からも、概ね上記のようなポジティブな反応をいただいているが、そうではない意見もある。たとえばLGBTQのテーマでは、事後アンケートで「全体的に誘導尋問みたいで、皆に同じ価値観を押し付けようとしている」、「LGBTや男らしさ・女らしさへの言動を必要以上に気をつかうことにつながり不快に感じる」、ボディイメージのテーマでは、「そもそもボディポジティブ（自分の体に肯定的なイメージを持っている）である必要はあるのか？」といった主旨の感想をもらったことがあった。

特に意見を出すワークショップにおいて、優等生的な意見だけを拾うのではなく、多様な価値観があるなかで、このような批判的な視点についても共有し、考察することが更に学びを深めることにつながるのではないだろうか。差別や暴力には許容されるべきではないことを毅然に示しつつ、多様な価値観のなかで、自分がどのような考えを大切にしているのか、ファシリテーションの力量が問われるところである。

そして、様々な反応を示す生徒・学生が想定されるなかで、教育を提供する側のトラウマインフォームドケアについての視点も必要であろう。

また、性感染症のテーマでは、もっと知りたい人は任意で視聴をすすめる形でコンドームのつけ方の動画を紹介したが、「授業内でコンドームのつけ方はより詳細に取り上げるべきだ」という意見もあった。性教育を1回の特別授業で終わりにするのではなく、継続的に取り上げていくことが、性について自分事として向き合い、相談しやすい環境づくりにもつながっていくと考える。今後も子ども・若者のニーズに応じた性教育を提供できるよう、子ども・若者たちの声に耳を傾け、教員や保護者など、大人たちを巻き込みながら、模索し改良を続けていきたい。

## 世界で広がるデジタル CSE と展望

世界的にも、コロナ禍や急速なインターネット・SNSの普及によりデジタル性教育が加速し続けている。たとえば、先述した性教育アニメ動画「AMAZE」は現在性の健康や人権に関して幅広く150本以上の動画が製作されており、YouTube上にアップされ無料で閲覧ができる。AMAZEの動画は196の国と地域で様々な言語に翻訳され、学校現場での活用だけではなく、SNSにも投稿され、広く視聴されている。

また、オランダの性教育NGOであるRutgersは、インドネシアの中学生向けに2年間のオンライン包括的性教育介入プログラムSETARAを開発し、その効果測定も行っている<sup>(4)</sup>。更に、アメリカでは、コロナ禍で22団体が参画する「Sex Education Collaborative」(<https://sexeducationcollaborative.org/>)というサイトが立ち上がり、州ごとの性教育実施者向けのトレーニングや州の性教育政策の情報が検索できるポータルサイトが公開されている。

2021年11月に、UNFPA、ユネスコ、ユニセフらが主催するアジア太平洋地域でのDigital Sexuality Educationの国際カンファレンス「DESIRE2021」に筆者は参加したが、若者が主体となりSNSやアプリを活用した包括的性教育の啓発も広がっていることを実感した。海外での包括的性教育の幅広さ・深さ、そしてその学ぶ機会の充実や規模感には驚くばかりだが、そのような事例から学ぶことも多いだろう。

また日本において、テナゲルスケア社が運営する10代向けの性教育メディア「セシル」(<https://seicil.com/>)の累計PVは1000万件を超え、先日書籍版も出版された。筆者は同サイトのアドバイザーとしてかかわっているが、10代によくある悩みを専門家の方々や若者に答えてもらうというサイトで、多くの方々のご協力があってこそ価値のある情報をたくさんの若い人に届けられている。一方で、情報サイトやSNSではその時（いざ困った時）に知りたい情報を得ることには向いていても、体系的に年齢に応じた性教育を学ぶことや、多様な考え方・価値観を持つ生徒同士での交流の機会を得ること、いつでも性について質問や相談ができる身近な大人がいる環境を作ること、別のアプローチが必要だ。

テクノロジーを活用しながら、若者・生徒が学ぶールの充実化だけでなく、学校教員や性教育に携わる大人が学び、研鑽を重ねる場を作っていくこともあわ

せて重要だと考える。日本に生まれ育ったら、ラッキーな一部の子だけが性教育を受けられるのではなく、すべての子どもたちが安心・安全な場で性の健康と権利を学ぶことができ、罪悪感なく尊重されるべき存在として相談・支援につながれる環境整備に向けて、私たち大人こそが連携し、学び続けていく必要がある。「ライフデザインオンライン」もその一助になれば幸いである。

#### 【参考文献】

- (1) UNESCO, 2018, International technical guidance on sexuality education: an evidence-informed approach
- (2) 浅井春夫, 2020, 『包括的性教育』, 大月書店
- (3) 東京都教育委員会, 2018, 性教育（中学校）の実施状況調査
- (4) Rutgers, A Qualitative Evaluation of the Setara CSE program for junior high schools in Indonesia. <https://rutgers.international/resources/qualitative-impact-protocol-report-on-setara-in-indonesia/>



## 性科学ハンドブック Vol.13

好評発売中！

# 岩室紳也と早乙女智子の もっと知りたい性のこと

岩室紳也・早乙女智子著

◆A5判：138頁 頒価700円

『現代性教育研究ジャーナル』2014年4月号～2017年3月号に連載した「もっと知りたい女子の性／もっと知りたい男子の性」に、加筆・訂正して再構成したものです。

#### 主な内容

- part 1 多様な性／「性」を科学する難しさ／女は女として生まれたい／性別違和／ジェンダーバイアス・ジェンダーギャップ ほか  
 part 2 女性の性／膣VAGINAはくぼみである／女子もします！ マスターベーション／人工妊娠中絶と女性の身体権 ほか  
 part 3 男性の性／「包茎」を科学する／男子はおちんちんで育つ／「男」は環境で育つ性／男性の性機能って何？ ほか

#### 著者プロフィール

岩室 紳也／泌尿器科医。ヘルスプロモーション推進センター（オフィスいわむろ）代表。AIDS文化フォーラム in 横浜運営委員。

早乙女智子／産婦人科医。公益財団法人ルイ・パストゥール医学研究センター研究員、日本性科学会副理事長。セックスセラピスト。

#### 既刊〈性科学ハンドブック〉

☆性科学ハンドブック Vol.11 『思春期の性衝動～男の子の性を考える～』 A5判・78頁 400円

☆性科学ハンドブック Vol.12 『腐女子文化のセクシュアリティ』 A5判・96頁 500円

※送料等は、ホームページを参照してください。

◆JASE ホームページ <https://www.jase.faje.or.jp/pub/pub.html> からお申し込みいただけます。  
 または、Email [info\\_jase@faje.or.jp](mailto:info_jase@faje.or.jp)  
 TEL 03-6801-9307 FAX 03-5800-0478



# いつきの“ヒューマン・ビーイング”

## 人権について考える ⑮

### 土肥いつき

京都の公立高校教員。24時間一人パレード状態のトランス女性。趣味の交流会運営で右往左往する日々を送っている。

### 原因を「わたし」の側におく

1月号で書いた新入生オリエンテーションでは、世界人権宣言の授業に先立って人権教育担当の紹介をします。その冒頭「人権は『思いやり』ではない」と言います。すると、作文の中に「ずっと人権は『思いやり』のことだと思っていた」という感想が出てきます。なぜこのような感想が出てくるのでしょうか。わたしの勤務校では、毎年新入生に対して入学時に人権アンケートをとっていますが、いくつかの人権課題のうち、障害者問題を知っていると答える生徒のパーセンテージがいつも一番高い結果になります。そこで、生徒に小中学校時代にどんなことをしたかたずねると、アイマスク体験や車椅子体験といった答えが返ってきます。おそらく、そのような体験学習を通して「障害者には思いやりをもって接しなければならない」と思ってしまうのでしょうか。わたしは、このような生徒たちにゆさぶりをかけたいと思っています。

わたしをこのような考えにしたひとつのできごとがありました。2007年、ある友だちから、障害者が自立生活をするための研修講座であるピアスクールというところで話をしてほしいと言われました。「なんでわたし？」と思いながらもなんとか話を終え、友だちを待つためにロビーにいました。そこに脳性麻痺と思われる方がこられました。瞬間、チラリと「話しかけられたらめんどくさいな」と思いましたが、他に行くところもないので、そこにいました。しばらくして、その方が何やら話しかけてこられました。案の定、言語障害があるため聞きとれません。何度も聞き返していると、その方は「仕方ないな」という感じで50音のボードを出されて、ひとつひとつ文字を指してくださいました。おっしゃっていたことは「どこから来たんや」でした。その瞬間、「あれ？」と思いました。「英語で話しかけられてわからない時は『自分が英語ができないから』と思うのに、なぜ脳性麻痺の人の話がわからない時は相手のせいにするんだろう」と思ったのです。その瞬間「この人の話がわからないのは自分の問題だ」と気づきました。その後、文字盤のおか

げでお酒とかタバコとかのたわいない会話を楽しむことができました。やがて友だちがやってきて、その人と普通に会話をはじめました。その後、友だちは「慣れたらわかるけどな」と言っていました。おそらくその方は、ひとりであるわたしの相手をしてやろうと思われたのでしょうか。なのに言葉が通じなかった。実は「めんどくさい存在」は、わたしの方だったのです。これ以降、ある人があることができない時、その原因をその人に求めるのではなく、それができない環境をつくる「わたし」の側においてみることにしました。

こんなわたしは、障害当事者に来てもらう人権講演会は、「障害による不便」や「その不便を克服した人」といった話ではなく、「障害とは何か」を話す人に頼みたいと思っていました。そこで「この人」と思ったのが、かつてわたしも「本」として参加した「リビングライブラリ」で友だちになった小林春彦さんでした。小林さんは18歳の時に脳梗塞が原因で高次脳機能障害になりました。それ以降の経験の中で、いつしか「障害の軽重ではなく困難の軽重」に着目するようになったと言います。つまり、重い障害があっても環境を整えば困難は減り、逆に軽度障害であっても環境によっては困難が増すとされるのです。さらに、生徒たちに「君たちの中にも障害以外にもさまざまな困難をかかえている人がいるでしょう」と呼びかけられます。そうした生徒たちへ向けて、困難を減らすためには依存先を増やすことが大切だとされます。そして、障害者が困難をかかえるのは、依存先が少ない状況に置かれているからだだとされます。このようにして、障害が社会によってもたらされることを示されます。

実は、小林さんは「社会モデル」や「合理的配慮」といった言葉は使われません。それでも「ドラマやテレビでよく見るのは『障害者は頼りすぎ』というものですが、健常者の私たちの方がたくさん依存しているんだなと思いました」といった感想が出てきます。きっとこの生徒も、ピアスクールでわたしが経験したのと同じような経験をしてくれたのかなと思います。

多様な性  
のゆくえ

One side/No side [62]

## 大きくつなぐ力

日本 HIV 陽性者ネットワーク・ジャンププラス (JaNP+) の創設者であり、ゲイアクティビストの詩人、そして女装のパフォーマー「ベアリーヌ・ド・ピンク」としても知られる長谷川博史さんが3月7日、69歳で亡くなった。

JaNP+は2002年に創設され、長谷川さんが11年間、代表理事を務めた後、2013年6月に現代表の高久陽介さんが引き継いでいる。

アジア太平洋 HIV 陽性者ネットワーク (APN+) のメンバーとして、国際的にも活躍していた長谷川さんについては、当コラムでも昨年8月の第52回から11月の第55回まで4回にわたって紹介したことがある。それでもなお、稀代のモンスターに対しては書き尽くせなかったという思いが強い。

JaNP+の公式サイトには長谷川さんに対する追悼メッセージと思い出を集めた特設ページがある（下欄外アドレス参照）。

亡くなった2日後の3月9日から12日間にわたってネットで投稿を募り、100件を超えるメッセージが寄せられた。冒頭には「小さなちからを大きくつなぐ」という見出しが、文字通り小さく付けられている。募集時の案内によると、長谷川さんが大切にしていた言葉であり、JaNP+の原点でもあるという。

公開されたページを最初に拝見した時には、投稿者の7割前後は、エイズ対策に関連して私がお会いし、言葉を交わしたこともある人で占められている印象を受けた。だが、この原稿を書くために「正」の字を付けながら一件ずつ数えてみると、団体からの投稿数件を除き、私が知っている人のメッセージは47件で、面識がない人の方が56件と多数を占めている。

第一印象はあてにならない。このことを再認識するとともに、長谷川人脈の広さとそれが土台となった「大きくつなぐ力」を改めて知る思いだった。

メッセージの最初は特定非営利活動法人ふれいす東京の元代表、池上千寿子さんによる「ふたりで司会」である。以前のコラムでも紹介したように、長谷川さ

んと池上さんは2005年7月、神戸で開かれた第7回アジア・太平洋地域エイズ国際会議（神戸会議）で開会式の司会を担当している。

『国際会議ですから司会は英語、なのにリハーサルなし。とにもかくにも大事なオープニング、時間通りにとどこおりなくもりあげておさめろ！プレッシャーばかりのしかかります』

予算の関係で『プロの司会者を雇う余裕はない』と追い詰められた挙句、無理を承知でプレッシャーをかけたのは私だった。すいません。もちろん「おさめろ！」などと命令口調で言える立場ではなかったが、「おさめていただけないでしょうか」とひたすら低姿勢でお願いした記憶はある。

池上さんの次には私の投稿が掲載された。ただし、神戸会議開会式で長谷川さんが行った演説の全文紹介なので、実質的には長谷川さん自身による投稿と言いきらる。編集の妙に感謝したい。野球で言えば、先頭の池上さんがヒットで出塁、二番手がバントで手堅く送って、その後の大量得点につなげた。そんな感じかなと勝手に思っている。

長谷川さんが演説を行ったときの写真は、司会者二人と同様、ボランティアで会議の公式カメラマンを担当した写真家、菊池修さんが撮影した一枚である。

HIV/エイズ対策の鍵を握るアジア太平洋地域のキーポピュレーション（HIV陽性者、性的少数者、セックスワーカー、薬物使用者ら）のネットワークから参加したメンバーが壇上に集まり、長谷川さんを見守っている。それぞれの国で強いスティグマと差別に曝され、それまで自らの立場を明らかにできなかった人も、あえて登壇することを選んだ。

『HIV陽性であろうとなかろうと、その想いが前向きであろうとなかろうと、私たちは同じ世界に生きているのですから、ここに集まった人々はみな、小さなウイルスとの大きな闘いに立ち向かっている仲間です』

長谷川さんのスピーチはまさしく、その思いを大きくつなぐ力になった。

# BOOK GUIDE

## 今月のブックガイド

### 「グッド・ラック！」 スウェーデンからのメッセージ

「リスペクト、つまり相手を尊重する気持ちがいいセックスと愛の基本だ」——スウェーデンの作家であり、性教育者の著者による10代の男の子向けの性教育本。「いちばん大切なこと」として、最初に掲げられているのがこのメッセージ。「いいセックスと愛」のために、男の子が知りたい話、知っておいたほうがいいこと、考えてほしい問題が軽やかな口調で語られる。

最初のテーマは、もちろん「パンツの中のこと」。男の子が気にするのは、古今東西、「ほくのチンコってふつう？」ってことらしい。さまざまな包皮の状態がイラストで描かれ、ペニスの裏スジやら、白っぽいブツブツやら、まだらな色素やら、タマの位置やら、とても細かく説明される。チンコの実況中継みたいで、気がつくときと性科学の知識がどどん頭に入ってくる。ペニスの形はみんな違う。励ましでも、個人の体験談でもなく、若者の興味や関心に沿って説明される正しい知識は、きっと抵抗なく伝わるはずだ。

「ソロセックス」なるオナニーについても、いろいろなやり方が紹介されているが、「ムラムラしないときもある」ことや「ポルノが好きではない」男性のデータも示されている。ポルノを観たいと思う衝動に罪悪感をもつ必要はないが、現実世界とフィクションの違いをきちんと理解しておく必要がある。ポルノにハマることへの不安や対処法などは、多くの男の子が求めている情報なのかもしれない。

チンコ、オナニー、マンコ、恋愛…と話は展開し、セックスの話の前にあるのが、タイトルにもある「リスペクト」。相手を尊重することはもちろん、まず、尊重すべきは「自分自身」であると著者は言う。ときに「男性の集団心理」として、分別を失うこともある。男性として生きることは、「弱い人間に見られたくな



### RESPECT 男の子が知っておきたいセックスのすべて

インティ・シャベス・ペレス著  
みつつん訳、重見大介 医療監修  
現代書館  
定価 1980 円 (税込)

い」というプレッシャーと無縁ではない。そんなジェンダーによって、仲間の目を気にして暴力的な行動を選択する必要はない。自分自身を尊重してこそ、相手の許容範囲、言い換えれば境界線を知り、大切にすることができるのだ。

本書が男の子の性的関心に応じた性情報にとどまらない、まさに性情報であるのは、こうしたジェンダーの不平等性をつねに問いかける姿勢にある。「男性というのは社会の中で特別な位置にいる」と構造的な性差別を明確にし、他者を制圧しうる「男の子」の立場に自覚的である必要性が述べられている。男性のジェンダーロールは、男性の生きづらさといった問題だけでない。本書は、社会の力関係を悪化させないという役割を「男の子」に期待するものである。それは決して堅苦しいものではなく、身近なエピソードから「マンコへの抑圧」に気づき、男の子自身も「他人から指図されたりなにかを強いられたりすることなく生きる権利がある」とわかること。だれもがリスペクトされる社会をつくるために、他人をコントロールしないこと、相手に耳を傾け、機会をゆずり合うこと、平等に分担することが大事なのだ。

リスペクトについてじっくり考えたあとは、いよいよ「セックスの基本」。セックスといっても、女の子とのセックスだけじゃない。男の子とのセックス、性的なメッセージを送り合うセクスティング、アナルセックスまでいろいろ。もちろん、ここまで読めば、いろんな恋愛やセックスにもリスペクトが求められることがわかるだろう。「キモイ」なんて言うのは抑圧だってこと、カッコ悪いことだって感じられるかな？

原著は2010年に出版されて以降、2021年12月までに16ヶ国語で翻訳刊行されている。若者は、こんな情報を求めている。そして、こんなふうに率直に性を語ってくれるおとなを望んでいるのだろう。

(大阪大学大学院准教授 野坂祐子)

全国性教育研究団体連絡協議会

▶▶ 8月4日(木)9:30~19:00

8月5日(金)9:30~16:30 ◀◀

## 第50回記念 全国性教育研究大会

### 第30回関東甲信越性教育研究大会

**テーマ** 人間形成を基盤とした性教育をすべての子供たちに  
～半世紀の性教育からさらなる学びへ～

#### プログラム

- 1日目**：9:30～9:45 **開会行事** 挨拶 開催地挨拶・活動報告 祝辞  
9:50～10:30 **基調講演** 「新学習指導要領に基づく性に関する指導」(仮題)  
(文部科学省初等中等教育局教科調査官)(予定)
- 10:30～12:10 **記念講演** 「フィンランドにおける包括的性教育」(仮題) トンミ・パーラネン  
(フィンランド・Sexpo 財団代表) 東 優子 (大阪公立大学教授)
- 13:10～13:50 **特別講演 I** 「人間の性と性教育～性教育の半世紀～」(仮題) 宇野賀津子  
(ルイ・パストゥール医学研究センター室長)
- 13:50～14:20 **特別講演 II** 「全性連のこれまでとこれから～日本型包括的性教育の構築～」野津有司  
(全性連理事長・筑波大学名誉教授)
- 14:30～16:20 **パネルディスカッション** 「現代的課題に対応した性教育をどう進めるか」(仮題)
- 16:20～16:30 **次期開催地挨拶** 熊本県性教育研究会
- 17:00～19:00 **記念祝賀会** 喜山倶楽部 (日本教育会館9F、会費5000円、参加自由・当日参加可)
- 2日目**：9:30～12:00 **分科会 I** (発達段階別)  
「幼児期における性教育の実践」「小学校における性教育の実践」  
「中学校における性教育の実践」「高等学校における性教育の実践」  
「特別支援学級・学校における性教育の実践」
- 13:30～16:20 **分科会 II** (課題別)  
「多様な性の理解と対応」日高庸晴 (宝塚大学看護学部教授)  
「情報化社会と性」警視庁生活安全部 (予定)  
「外部機関と連携した性教育」渡辺一信 (駒沢大学非常勤講師)  
「最新医療と性」小貫大輔 (東海大学国際学部教授)  
「性に関わる個別指導」三木とみ子 (女子栄養大学名誉教授)

**会場** 日本教育会館 (東京都千代田区一ツ橋 2-6-2)

**定員・締切** 定員・締切 / 300名・令和4年7月20日(水) 締切 (定員になり次第締切)

#### 参加費・申込み・問い合わせ先等

参加費 / 両日参加：一般6000円、学生2000円、1日参加：一般3000円、学生2000円

主催 / 全国性教育研究団体連絡協議会、関東甲信越性教育研究団体連絡協議会、東京都性教育研究会、日本性教育協会  
後援 / 内閣府、文部科学省、厚生労働省ほか

問合せ先 / 全国性教育研究大会事務局 FAX 03-6801-8776 E-mail: zenseiren@galaxy.ocn.ne.jp

申込み方法 / 右記 URL もしくは QR コードより。https://forms.office.com/r/HSzDwajmDG

または FAX 03-6801-8776 (申込用紙は全性連ホームページ <http://zenseiren.org/> よりプリントアウトできる)



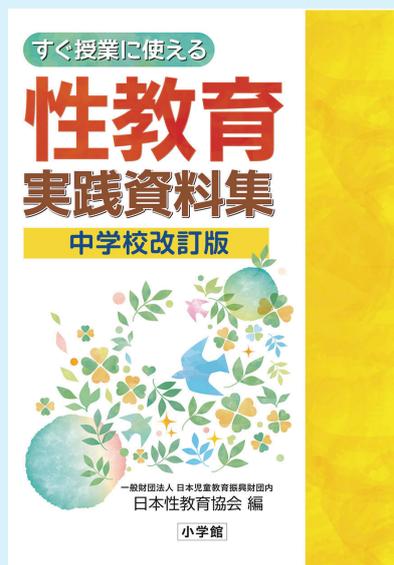
すぐ授業に使える

# 性教育実践資料集

## 中学校改訂版

〈主な内容〉

- 第1章 中学校における性教育（性教育を実践するにあたって／性教育の目的と意義）
- 第2章 性教育の実践（性教育の現状と実践の課題／学習指導要領における性教育の取り扱い／性教育の指導体制／指導計画の作成／性教育実施上の留意点／家庭・地域との連携／中学校の性教育の今後に向けて）
- 第3章 指導事例（各学年における指導計画と指導の流れ／8つの1年生の指導事例／6つの2年生の指導事例／6つの3年生の指導事例／7つの個別指導事例／5つの組織の指導事例）
- 第4章 参考資料（性行動経験率／性的なことへの関心割合／自慰経験率／性的関心の経験割合の推移／性へのイメージ／性感染症報告数の推移／梅毒患者報告数の推移／HIV・エイズ感染者の動向／人工妊娠中絶実施率及び推移／用語解説）



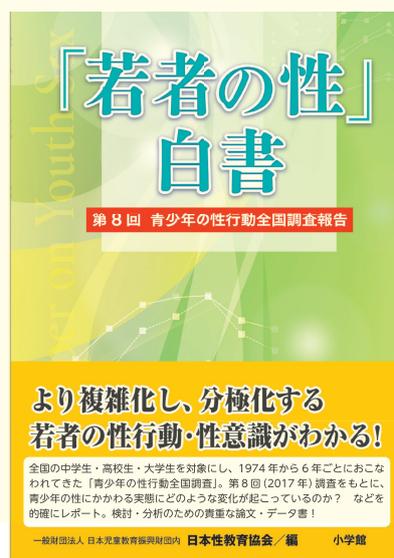
定価 2,200 円（税込） B5 判・224 ページ

# 「若者の性」白書

## 第8回 青少年の性行動全国調査報告

〈主な内容〉

- 序章 第8回「青少年の性行動全国調査」の概要
- 第1章 変化する性行動の発達プロセスと青少年層の分極化
- 第2章 青少年の性規範・性意識からみる分極化現象
- 第3章 家庭環境や親子のかかわりの違いは青少年の性行動に影響を与えるか
- 第4章 知識・態度・行動の観点からみた性教育の現状と今後の課題
- 第5章 青少年の性行動と所属集団の性行動規範
- 第6章 青少年の避妊行動の実態と包括的性教育の可能性
- 第7章 性的被害と親密性からの／への逃避
- 第8章 青少年の性についての悩み  
～自由記述欄への回答からみえるもの～



定価 2,420 円（税込） A5 判・256 ページ

編／一般財団法人日本児童教育振興財団内 日本性教育協会 発行／小学館

全国の書店にて、ご購入いただけます！